

台湾研修を終えて

北翔大学 芸術学科 2 年

今回初めて北翔大学の海外研修に参加してみて、人生初めての海外ということもあり自分の中の世界観が広がりとても素晴らしい体験ができたと思いました。日本では見られないもの食べれないもの経験出来ないことなど沢山の体験がありました。台湾は日本と似ているところもありましたが街並みや交通などが日本とは異なるところがあり驚きました。また国際飛行機も初めて乗り機内食など新しい体験をすることができました。

1 日目はほぼ移動で終わってしまいましたが初めて台湾料理の味を味わうことができました。日本ではあまり口にしない台湾独特の香辛料の味に最初は驚きましたがたくさんの料理が並んでいくうちに口もなれとても美味しくいただきました。また日本ではほとんどのお店がお茶ではなく水を出しますが台湾ではお茶が多く、そのお茶もどのお店もすこし味が違ったりとお茶の味が楽しめて美味しかったです。

2 日目は故宮博物院に行きました。故宮博物院で 1 番有名な白菜と角煮は海外にいつてしまっていて見ることはできませんでしたがとても素敵なたくさんの美術品を見ることができ面白かったです。その中でも最も印象に残っているのは象牙透彫雲龍文套球です。台座に置かれた球



は約 12 センチほどで球は全部で 24 層にもなっていて表面には 9 匹の龍がいます。近くで見てもどうなってるかわからないくらい細く掘られていて龍もすごく細かくすごい技術だなと思いました。また 24 層すべてが自由に回転することができる聞き驚きました。どの美術品も昔に作られたとは思えないほど綺麗に保管されていたり細かく文字が彫られていたり昔の技術でここまでできるのがすごいなと思いました。日本では見られない技術や作品を見れてとてもいい経験になりました。



その日の夜はタイペイアイを見に行きました。日本でもおなじみの西遊記のキャラクターが出ていたり日本語訳もでていて話の内容も伝わり見ていて楽しかったです。劇に出ている役者さんはみんな身軽で思わず拍手してしまうほどの技を見せていただきました。映画でもアクションなどが好きなのでタイペイアイをとっても楽しむことができました。

実践大学訪問では服飾とメディアデザインと2つの芸術の学部のお話を聞くことができました。私も服飾なので自分にとってとてもいいお話を聞くことができました。台湾の学校の服飾では基本的に1年間で1人6〜7着作ると言っていてその時点で私たちと作る量が違うなと思いました。先輩の中では1人でたくさん作る方もいますが私の代の中では1年生の時多くても3着でしたしそれでもいっぱいだったもので1人6〜7着はすごい早さと技術と時間が必要だと思いました。

作るまでの工程もすこし違っていました。私たちは何人かでグループを作りその中でテーマを決めてそのテーマにそってデザインをして作っていきますが台湾の大学の方ではテーマを決めてからみんなデザインをするとどうしても似たり寄ったりのものができてしまったりするという考えから、生徒一人一人が作りたいものを作っていると言っていました。生徒一人一人がこれを作りたい！という強い意志をもって個性に溢れているそうです。実際にファッションショーのDVDを見させていただきましたが1着1着に個性が出ていてこのテーマで作らなければいけないという形にとらわれていない感じが私たちの作品とは違い面白いなと感じました。

あちらでは作る量が多いのでとにかく毎日忙しくコンテストにもどんどん応募しているそうです。それに比べて自分はアルバイトに行ったり自分の自由な時間があったりコンテストにも応募していなかったりとマイペースすぎるなと改めて思いました。もっとアルバイトと自分の時間を削り服を作ることに専念すれば今よりもっと作品を作ることができたりよりよい作品を作れると思うのでこれから台湾の大学の方々を見習って形にとらわれず自分の作りたいものを作っていきたいと思いました。

またあちらの先生が言っていたことで感心をもったのが「デザインだけかけても作り方がわからないとだめ。技術も大切だがどういう風に作れるかを理解しているのが基本！」とおっしゃっていて私たちが学校で服を作る時わから

ないところを先生に聞いて頼っていたりと先生に頼りっぱなしで服を作る工程をしっかりと理解してなかったりするところがあるのでまずデザインや技術をあげる前にしっかりとどういう風に作られているのか、服を作る工程を考え理解しながら作っていきたいと思いました。

次にメディアデザインの方では生徒が作った作品の映像をいくつか見せていただきました。アニメや自分で作った作品を使った映像など創造的で面白いものばかりでした。しかし1年生の頃からこういった作品を作れるわけではなく1年生の時は自分の身体を使ってなにかを表現することからはじめるそうです。その映像を見せていただきましたが一人一人が自分の身体をつかって不思議な動きをしたりと服飾と同じく個性が溢れていました。こういった経験から次の作品につながる創造的な考えが生まれるのだろうと感じました。服飾でもメディアデザインでも私たちの大学とはまた違った世界観が広がっていて1人1人の個性がうまく表現できていてそれを今回実際に見たり話を聞いてみて自分の中の世界観も少し変わったり広がりました。大学訪問してみてとてもいい経験になりました。

服飾創作基地のワークショップと工房見学では、新人デザイナーの話などたくさんのお話を聞くことができました。毎年40人の新人デザイナーを選び支援しているとおっしゃっていてまたその新人デザイナーがデザインして作った作品も見せていただくことができました。リュックや袖にレースやフリルが工夫して使われていたり、中のワイシャツも一般的なワイシャツを更にリメイクした形になっていてとてもお洒落だなと感じました。2階にはデザイナーが自由に使える工房になっていました。中にはスポーツ製品用の見たことのないミシンなどがありおもしろかったです。西園 29 服飾



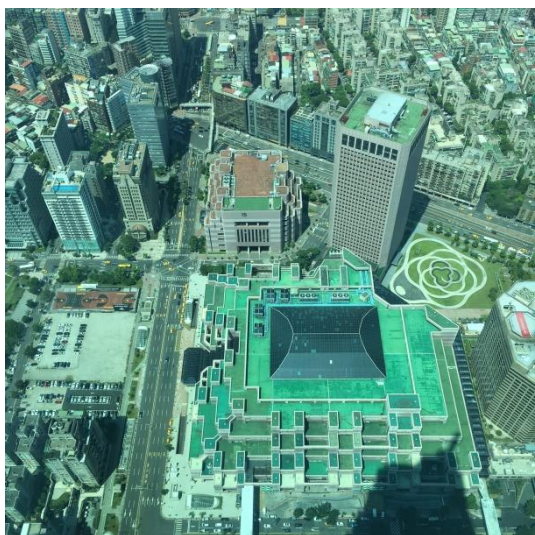
創作基地の1階では商品を売っていました。一般的な服も売っていましたがスポーツ製品が多くまた台湾は暑くて汗をかいたりするので生地や作り方に工夫があつて日本ではあまり見られないデザインが多かったです。それぞれの土地にあったデザインや新しいデザインに実際にふれることができ勉強になりました。

わたしは今回の海外研修の大きな目的のひとつに後期授業で作るウェディングドレスの生地を買うという目的がありました。なので永楽市場に行くのがと

でも楽しみでした。

生地を選ぶのに約2時間の時間を与えてもらい、はじめはそんなにかからないだろうと時間があまるだろうと思っていましたが予想以上に永楽市場が広くまた生地の種類が多く2時間でもまわりきれないほどで驚きました。いつもは作品の生地を家の近くの生地屋で買うことがほとんどですがそことは比べものにならないくらい種類が豊富で生地自体も安かったです。

もともとウェディングのデザインは決めていましたがたくさんの生地を見て回るにつれて色々なデザインが思い浮かび迷ったりととても時間がかかりました。結果的に自分の思い望んでいたような生地を見つけることができとても満足しています。また日本では手に入れづらいようなたくさんの生地を見て回ることによって様々なデザインを想像することができたりとデザイン性の幅を広げることができたと思います。永楽市場では目的以上の発見をすることができ



ました。

台北 101 では、1 階から展望フロアの 89 階まで約 39 秒でのぼるギネスブックにも載っている東芝の世界最速クラスエレベーターに乗ることができました。なかなかできない体験なので貴重な体験ができたなと思います。展望フロアからの景色はとても綺麗で変わった形の建物や街を見ることができ感動しました。

今回の海外研修では、はじめての体験が多く不安なこともありましたがとても楽しむことができました。はじめて日本の

外にでてみて改めて世界は広いなと思いました。わりかし日本から近い台湾でも新しい発見がたくさんあったのに他の国に行ってみたら他にどんな発見が見つかるのだろうと思い、もともと海外に行ってみたいという興味はありましたがさらに強い関心になりました。せつかく今回の海外研修に向けてパスポートも作ったのでこれから台湾以外にもぜひ海外に行ってみようと思います。また台湾にももう一度行きたいと思いました。

まだ1度目の海外でしたが自分では狭かったと思う価値観や世界観などに少しでも変化があったと思います。この少しでも変化した自分の感覚を次に作る作品に影響していったらいいなと思います。

今回台湾で学んだたくさんのことをどんどんいかしてこれからの残りの大学生活を頑張っていきます。